

画家

ネイチャーフォトグラファー

石川功一×栗岩竜雄 軽井沢の花と蝶展



栗岩竜雄《ハクサンフウロで吸蜜中のアサマシジミ♂》2010 写真

ハクサンフウロ
1989.8.8

Ishii

石川功一《ハクサンフウロ》1989年 水彩スケッチ

石川功一の草花図（水彩・油彩）と蝶の観察歴50年目をむかえた栗岩竜雄の写真とのコラボ展

小さな美術館 軽井沢草花館

2023 4/22 土 - 11/19 日

開館時間 10:00 ~ 17:00 入館料 500円 (中学生以上)、小学生以下無料

休館日 火曜日 11/20以降冬期休館

<https://kusabana.net> Tel.0267-42-0716



軽井沢駅北口から約500m



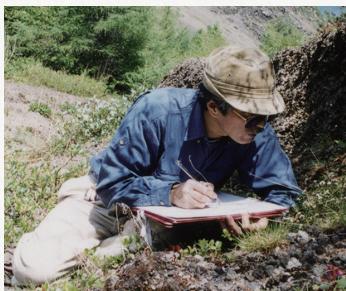
地図 QRコード

場所は右のQRコードをスマートフォンで読み取るか、裏面の地図をご参照下さい

石川功一 × 栗岩竜雄 軽井沢の花と蝶展

草花を描いた画家・石川功一（いしかわこういち）

1937年三重県伊賀市（旧・名賀郡青山町）出身。20才で東京に出奔、マンガ家となり、30才の頃から画家として活動。1981年（44才）、個展で軽井沢を訪れたことがきっかけで草花と出会い、軽井沢に自生する草花を描き始める。開発の中で自生地が狭められ、消えゆく草花が増える中、「軽井沢の自然に息づく草花の永遠の命を残す」をテーマに制作を続け、2007年（70才）に亡くなるまでに、水彩スケッチ900種以上と油彩画百数十点を描いた。



スケッチする石川功一 2001年6月29日

花 石川功一（Kōichi Ishikawa） 蝶 栗岩竜雄（Tatsuo Kuriwa）

軽井沢の自然の中で多くの花と蝶が生息しています。それらが密接に関わり合いながら命をつないでいることを、二人の作品から感じていただければ幸いです。



写真撮影する栗岩竜雄 2010年5月15日

展示作品の一例（会場では解説がつきます）



カラスアゲハ ◀食草▶ コクサギ
(羽化直後)



ミヤマシジミ♀ & ♂
(産卵中・求愛)

互いに軽井沢の自然を拠点に活動してきた画家・石川功一と、ネイチャーフォトグラファー・栗岩竜雄とのコラボ企画。軽井沢における植物と蝶のつながりを、石川功一の草花図（水彩・油彩）と栗岩竜雄の蝶の写真、計60点余りとエッセーで紹介する。期間中不定期に展示替えを行う。

蝶に魅せられて50年・栗岩竜雄（くりいわたつを）

1964年轻井沢町出身。1974年、小学4年生の時に町立東部小での昆虫クラブ入部をきっかけに、蝶の採集を始める。1987年、社会人になってカメラと出会い撮影派に転向。軽井沢町内外各所で写真展を開催してきた他、2015年には著書「軽井沢の蝶（1/20000の視点）」を出版（ほおづき書籍）。また、2005年から軽井沢町立中部小学校の「軽井沢自然クラブ」に外部講師として参加。今年で蝶の観察歴は50年目となる。

花 石川功一 × 栗岩竜雄 蝶

軽井沢の自然の中で多くの花と蝶が生息しています。それらが密接に関わり合いながら命をつないでいることを、二人の作品から感じていただければ幸いです。

